

世界史B 34 インドおよび西・東アフリカでのイスラムの浸透

1,インド社会とイスラム インド亜大陸→ヒンドゥー諸王朝が分立
 8世紀にインド洋交易が発展→9世紀までに()1海岸にムスリム商人の居留地が成立
 10世紀以降,南端部や()2→インド洋交易の一大中心地化
 3ムスリム商人---スリランカに居留地。船は三角帆を装備した木造縫合船=()3船。
 4()4商人---インド南端部の東・西海岸に居留地。

西北インド アフガニスタンのガズナ朝が10世紀末から侵入
 5()5朝=アフガニスタン系(1148~1215) 12世紀末に北インドの大部分を支配。
 6→東部ビハール・[()6にトルコ系ムスリムが集住
 7()7王朝(1206~90) アイバク(位1206~10トルコ人マムルーク出身)がデリーで1206年に自立
 イスラムの5王朝が交代→[()8=スルタン朝(1206~1526)
 9ハルジー朝(1290~1320) モンゴル軍を撃退, 3代()9は南インドに遠征
 10トウグルク朝(1320~1413)の時, 南端部でヒンドゥーのヴィジャヤナガル王国(1336~1649)
 デカンでイスラムのハフマニー朝(1347~1527)が発展。末期にティムール軍が侵入
 11その後サイイド朝(1414~51)=デリー周辺のみ、ロディー朝(1451~1526)=北インドのアフガン系。
 イスラム諸王朝→ヒンドゥー小王朝を服属させ、()10を許す→ヒンドゥー社会温存
 12ムスリム商人やスーフィーの活動→イスラムへの改宗が進む。ヒンドゥーと共存
 13全域で生糸・綿布・皮革製品・金属細工などの手工業生産発展・インド洋交易の活発化
 14南端部西岸では、()11の生産・輸出→カリカットなどの港市が発展

2、西・東アフリカ

〔西アフリカ〕
 12()12王国(8世紀~1076)
 13()13越えの金と岩塩などの隊商貿易で繁栄した黒人王国。首都クンビ・サレ
 8世紀 ムスリム商人の居留地を形成。
 11世紀後半 ムラービト朝の侵入でガーナ王国が倒れる。
 14()14王国(13世紀~15世紀)
 北アフリカと岩塩、金、奴隷等の交易で繁栄。[()15教を受容。
 ニジェール川流域の肥沃な土地で米、粟、モロコシを生産。
 14世紀 王マンサ・()16◆a(1312-37)、マンサ・スレイマン(1341~60)のもとで最盛期
 旅行家イブン・バトゥータが訪れる。
 ◆a---1324年ムスリムとして()17に巡礼した。莫大な黄金を持参。
 18()18王国(1473~1591)
 15~6世紀にニジェール川流域にソンガイ人が建国。
 首都ガオ→北アフリカ, エジプトとの交易の中心地。
 セネガル川・ニジェール川上流域の産金地を支配→ムスリム商人と交易。
 19()19→商業・文化の中心地。泥土の「サンコレ・モスク」建造。
 ソンガイ王国時代, マドラサがたち, スーフィーも活躍。
 16世紀末 サアド朝(16世紀~1659)=モロッコのイスラム国家=の遠征→ソンガイ王国滅亡
 〔チャド湖周辺〕
 カネム=ボルヌー王国(9世紀~1893)
 チャド湖周辺---アフリカ大陸中央部。サハラと中東の交易路。およそ1000年間繁栄。
 9世紀 ()20王国建国。サハラ越えの隊商でエジプト, リビアと交易。
 11世紀末 ムスリム商人の影響でイスラーム化
 16世紀 ()21王国に替わる。地中海近くまで版図とし、オスマン帝国と交流。
 16世紀末 ソンガイ王国の崩壊後, 北アフリカとの交易の中心となる。
 その東方→マムルーク朝の勢力下、イスラーム化がすすむ

()22王国(1270~1975) ソロモン朝
 1270年 イクノ・()23(位1270~85)により建国。
 マムルーク朝、ビザンツ帝国のスルタン、皇帝と書簡を交わす。
 サハラ以南で植民地時代以前から存在する唯一の[()24教国。
 アクスム王国以来の()25派信仰を保持→エチオピア正教会。
 〔東アフリカのインド洋沿岸〕
 8世紀 ムスリム商人がタンザニアの()26・奴隷、ジンバブエの黄金などを求め来航
 アジアから宝石・陶磁器・()27。
 12世紀 ()28---1418頃明の鄭和の一行が訪れる。「麻林」から麒麟を永楽帝に献上。
 ()29---東海岸の小島。9世紀イスラム商人に売却→交易拠点、大都市化。
 ()30---東海岸の島。奴隷・象牙・香辛料交易の拠点。
 モガディシュ=ソマリア。アフリカ東端の交易。 モンバサ=ケニア。インド洋交易の拠点。
 などの港市国家→ムスリム商人の居留地⇒バントゥー系の文化とイスラム文化の融合
 →アラブ人が, この地のムスリムおよび彼らの言語を()31=海岸に住む人々=とよんだので, この文化
 はスワヒリ文化と称されている。

ザンベジ川流域---()32=「石の家」
 13~4世紀 「グレート・ジンバブエ◆b」→大規模石造建築遺跡群
 中国製陶磁器、ペルシャの壺など→ムスリム商人との交流
 ◆b---ジンバブエ高原の南端、標高1000メートルに位置する遺跡。東西南北各1.5キロ。「アクロポリス」(高さ7m,石壁の厚さ6m)「大囲壁=グレート・エンクロージャー」(高さ11m,長径89m)など。青銅製品、象牙、鉄製ゴング、西アジアのガラス製品、中国の陶磁器などを出土。
 33()33王国(15世紀~19世紀)
 バントゥー系ショナ人の国。黄金を産出。西欧で「()34の国」象牙、ビーズなど。
 沿岸都市ソファールを経由したインド洋交易で繁栄。ポルトガルの取引。



マリ王国のマンサ・ムーサ王



ジェンネの大モスク



エチオピア正教会の聖堂



ジンバブエの大囲壁

- ・西 ・黄金 ・奴隷 ・象牙 ・胡椒 ・自治 ・マリ ・ダウ ・香辛料 ・カネム ・ガーナ ・コプト
- ・ゴール ・サハラ ・ムーサ ・カイロ ・キルワ ・ソンガイ ・スワヒリ ・アムラク ・ボルヌー
- ・ジンバブエ ・モノモタパ ・マリンディ ・エチオピア ・ザンジバル ・スリランカ ・トンブクトゥ
- ・アラウウディーン